

第8回学校運営協議会報告 2024年12月6日

8回目の運営協議会は、主に道徳授業地区公開講座（1・3年）の授業参観（意見交換）を行いました。東京都では、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、道徳授業地区公開講座を開催しています。公開授業の後には、クラスごとに意見交換の機会が設けられ、学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育の推進に向けた様々な会話が交わされていました。先生と保護者が交流できる貴重な機会なので、次年度もぜひ多くの方にご参加いただければ幸いです。

第9回学校運営協議会報告 2025年1月27日

9回目の運営協議会は、主に3学期の教育活動に関する状況報告がなされ、「教科担任制度」や「卒業式」に関連する事項で活発な意見交換が行われました。上ノ原小学校が導入している担任制度は、児童数の多い学校ならではの学校運営上の工夫の中から生み出され、それが今では草分け的な取り組みとなっていることなどが報告されました。また、社会の変化に応じた「卒業アルバム（文集）」のあり方について検討しました。本号にて「教科担任制」および「卒業アルバム」についてその内容を共有したいと思います。



ご存知ですか「教科担任制」

一般的に「担任の先生」のイメージは、一人ではないでしょうか。従来の学級経営を一人の教員（担任）が務める方式を「学級担任制」と呼びます。現在、文部科学省は、小学校高学年における「教科担任制」を推進するため、段階的な取組を展開しています。あまり知られていないかもしれませんが、上ノ原小学校では、先駆的にこの取り組みを導入し、「学級担任制」「学年担任制」と組み合わせ、学年ごとの適性に合わせた独自の制度を確立してきました。

教科担任制とは

「教科担任制」とは、小学校の高学年（5・6年生）で、教科ごとに専門の先生が授業を担当する制度です。これまでは一人の先生が全ての教科を教えるのが一般的でしたが、英語や算数、理科などの科目を、それぞれ得意な先生が教えることで、より質の高い授業を目指します。中学校の授業の仕組みに少し近づけることで、子どもたちがスムーズに移行できるようにするねらいもあります。

●参考資料

教科担任制を小学校教育の活性化に繋げている好事例がまとめられた資料です。詳細はぜひこちらをご覧ください。



文部科学省 HP「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」

教科担任制の取り組みにより、①授業の質の向上、②小・中学校間の円滑な接続、③多面的な児童理解、④教師の負担軽減に効果があるとされています。上ノ原小学校では、この教科担任制に加えて、「学年担任制」も導入しています。これは、学年を複数の教員で担当し、学級経営も教員が協働して行う制度です。学級担任のみならず、複数の教員がローテーションで授業や指導を担当することで、教職員が児童生徒の変化に気づく機会が増え、早期かつ丁寧な対応ができる効果や、教育活動や指導の透明性を高め、開かれた学校づくりにつなげる効果が期待できます。これら3種類の制度を組み合わせ、独自の制度を確立している上ノ原小学校の担任制度に、ご注目ください。



卒業アルバム（文集）について考える

卒業アルバムや卒業文集は、日本の学校文化において大切な役割を果たしてきましたが、近年では費用・個人情報保護・内容に関する問題・教員の負担など、多くの課題が浮上しています。特に、デジタル化の波や社会の価値観の変化に伴い、「これまで通りの形で続けるべきか」という議論が広がっています。

本協議会においても、卒業アルバムの制作から発注までの流れなどについての確認が行われ、課題に対する意見交換が行われました。今後は、卒業アルバム（卒業文集）の意義や制作主体、制作の簡素化、プライバシー対策の強化といった新しい方針を模索しながら、より負担の少ない形で「卒業の記念」を残せる方法を考えていく必要があるとの方針が確認されました。



確認された問題点

●費用面の問題

- ・卒業アルバムの制作費は1冊あたり1万円以上かかることが多く、家庭によっては負担に感じることもある（本校の場合、購入は任意）。
- ・卒業アルバムの発注や代金の集金に関して、市の決まりに従う必要があり、見積もりの比較や業者の選定などの手続きが複雑になっている。

●個人情報の問題

- ・アルバムや文集には児童の顔写真、氏名、学校名が記載されているため、流出するとプライバシー侵害のリスクがある。卒業アルバムの写真がSNSに無断でアップロードされ、第三者に閲覧されるケースが発生している。

●内容に関する問題

- ・「自分の写りが悪い」「嫌な思い出がよみがえる」などの理由で、写真掲載（写真を撮影されること）を嫌がる児童もいる。
- ・児童数の多い学校の卒業アルバムは、全員が写るよう配慮するため、広い画角の写真が多くなる。その結果、自分を見つけにくく、顔が小さく表情もわかりづらい。
- ・卒業文集の表現問題として、児童が書いた文章の中に不適切な表現や内容が含まれることがある。教員が修正や削除をすると、「検閲だ」と反発されることもある。卒業文集に書かれた内容によってトラブルに発展するケースもある。

●教員の負担

- ・写真の選定や文章の添削作業は、主に六年生の教員が担当することが多く、本来の教育業務や進路指導に加えて大きな負担となっている。また、写真の選定ミスや誤植によるトラブルのリスクも伴う。

●根源的な問題

- ・卒業アルバムや卒業文集の作成は、法律や規則で義務付けられているものではない。日本の教育関連法規（学校教育法・地方教育行政法など）には、卒業アルバムの作成を義務付ける規定は存在しない。文部科学省が定める「学習指導要領」や「学校運営に関する通達」にも、卒業アルバムの作成に関する義務規定はない。卒業アルバムは、学校教育の必須活動ではなく、「卒業の記念」として慣習的に作成されているものである。